

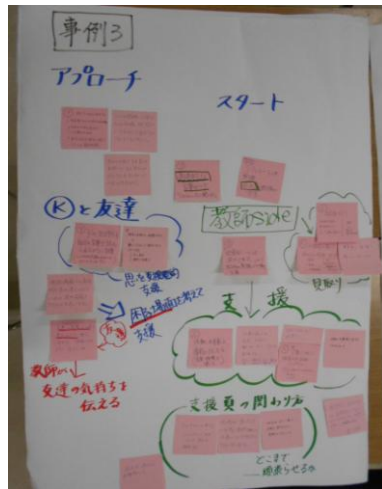
# I -②(1) 幼小合同事例検討会

平成26年度より、2月下旬に標記の会を行っている。小学校に進学する子どもの個に視点をあて、園や家庭での様子・生育環境などから、入学後の支援を考えている。会は心の支援部が企画・運営する。まず、幼稚園から事例を提供してもらい、幼小の教員でよりよい支援の在り方を話し合う。それを聞き、SCは具体的なアドバイスを提供する流れである。入学後、新担任はスタートカリキュラムの中で、アドバイスを基に合理的な配慮を工夫している。

## (1) 会の様子

### グループ討議の進め方

- ① それぞれの子供が「小学校に上がったときに、何に困るのか」を話し合う。
- ② 「先生方ならどういう支援をしていくか」を付箋に書く  
(※ 付箋には名前もお書きください。)
- ③ 付箋に書いたことをお互いに紹介し合いながら用紙に貼る  
似たような方法はまとめていく (※ マジックを使って)
- ④ 全体で発表する



①事例提供



②グループで協議



③発表



④SCよりのアドバイス

## 保護者・幼稚園との連携

お母さんとのカウンセリングより



- ▶環境の変化に敏感でいやがる。いやなことをいや、と言えず「バカ!」「ボケ!」などの言葉で表現する
- ▶失敗を過度にいやがる。ごめんが言えない
- ▶大きい音、騒がしい音は耳をおさえる(自分の音はOK)
- ▶文字をすらすら読めない。他人が読んでくれる方が理解しやすい
- ▶ボール遊びや点つなぎをいやがる。鏡文字がある
- ▶ほめられるとうれしい

## 〇〇さんの強みと成長

- 一度、経験してみると次からは比較的スムーズにトライできる
- 始めは過敏さが目立ったが、こちょこちょ遊びができるようになった
- 慣れると人懐っこく、自分からいろいろな話をする事ができる
- 落ち着いているときは、優しい態度や発言をすることができる
- 以前はほめると「フッ」「別に」という態度だったが、いまは「どやっ」という顔で感情を表出できる



園での集団生活・受容される体験が過敏性をやわらげ、それによりできる動き・遊びが増え、自己イメージの向上につながっている

## 〇〇さんへの支援

### ①ジレンマへの理解

ベースにあるものは不安であり、彼なりの対処方法が暴言や自分勝手(に見える)なふるまいであると理解する。危ないとき、だめなときははっきり行動を否定するが、不安からの行動の際には気持ちを受け止める

### ②暴言・試し行動への対処

挑発行為はサラリとアイメッセージで注意する。暴言＝困り感の不適切な表出と捉え、さらに観察し見立ての材料とする

### ③ボディイメージの強化による自尊心アップ

身体の動きや感覚受容を強化し、遊びや活動を充実させることで自尊心アップ(自己イメージの向上)をはかる





### (3)スタートカリキュラムでの活用(学習指導案に位置づけ支援を具体化する)

#### 学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容

##### 1 第1学年及び第2学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

##### 2 内容

###### [ 知識及び技能 ]

- ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。
- ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

###### [ 思考力・判断力・表現力等 ]

##### C 読むこと

- イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

本単元では、[知識及び技能]はク、[思考力・判断力・表現力等]はエを中心に指導する。



#### 本単元に主に関わる10の姿

##### (3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

##### (6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

##### (9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

##### (10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



#### 附属幼稚園での様相

日常での遊びの中から抱いた興味や関心と、絵本の内容とを結び付けながら、自分たちで発表会をする劇を考えていった。その中で、どのようにすれば自分たちがイメージしたことが伝わるか、それぞれの思いを伝えたり、実際にやってみたりし友達と試行錯誤しながら、常によりよいものを目指して、改善していく姿が見られている。

#### A児に関して(心の支援部 SCより指針-2月合同ケース会にて-)

##### ○ ボディイメージの強化による自尊心アップ

身体の動きや感覚受容を強化し、遊びや活動を充実させることで、自尊心アップ(自己のイメージの向上)をはかる。

～課題解決中～ **学習活動2**

言葉だけでは様子をイメージしにくい子供たちや、自分が次にすることが分からなくて不安になる子供たちのために、まずは、教師が劇を見せ、自分がまねしたいところはどこか、もっと登場人物になりきるにはどうすればよいかを問いかけ、実際に動きながら想像させる。(㊦：もぐら役として、T1と一緒に劇をして、A児を含めた全ての子供たちにペアですることが視覚的に分かるようにする) そうすることで、学習活動3での活動を経験することになり、自分たちがどのようなことについて話をすればよいか見通しをもって学習活動3に取り組むことができるようにする。また、その際には、どの叙述からそう思ったのか尋ね、叙述を基に話ができるようにする。

＜学習指導案より抜粋＞